



AS MXF Checker Server

製品マニュアル

2026/8/10版

ver1.1.8

目次

1. はじめに.....	4
1.1. 本マニュアルについて.....	4
1.2. 製品概要.....	4
1.3. 動作環境.....	4
1.4. 注意点.....	5
2. インストールとセットアップ.....	6
2.1. ダウンロード手順.....	6
2.2. インストール方法.....	6
2.3. クラウドや仮想環境上で動作させる場合.....	7
2.3.1. クラウドキーの設定方法.....	7
2.3.2. S3(互換ストレージを含む)を利用する場合.....	9
2.3.2.1. Path-style設定について.....	10
2.4. 初回パスワード認証とパスワード設定.....	11
2.5. ライセンス登録.....	12
3. ライセンス認証とアクティベーション.....	13
3.1. ライセンスの更新.....	18
3.2. ライセンスの解除.....	20
4. Web管理画面の使い方.....	22
4.1. アクセス.....	22
4.2. ログイン.....	22
4.3. ログイン後の画面の基本.....	23
4.4. ステータスメニュー.....	24
4.4.1. ステータス表示メニュー.....	24
4.4.2. 処理履歴.....	26
4.5. 設定メニュー.....	27
4.5.1. 基本設定.....	27
4.5.2. 検査項目設定.....	28
4.5.3. ウォッチフォルダー設定.....	31
4.6. システム設定メニュー.....	40

4.6.1. Web UI設定.....	40
4.6.2. 監視設定.....	41
4.6.3. プロキシ設定.....	42
4.6.4. ユーザー管理.....	43
4.6.5. パスワード変更.....	45
4.7. ライセンスメニュー.....	46
4.7.1. ライセンス設定.....	46
4.7.2. このアプリについて.....	47
4.7.3. OSS／サードパーティライセンス.....	47
4.8. メンテナンスメニュー.....	48
4.8.1. 通知.....	48
4.8.2. ログ.....	48
4.9. ログアウト.....	49
4.10. 条件式構文について.....	49
4.10.1. 入力例.....	49
4.10.2. 値の型.....	49
4.10.3. 変数内の項目を参照する.....	50
4.10.4. 配列に値が含まれているか判定する.....	50
4.10.5. 論理演算子.....	51
4.10.6. 比較演算子.....	51
4.10.7. 算術演算子.....	52
4.10.8. 括弧.....	52
4.10.9. 三項演算子.....	53
5. 検査結果詳細画面.....	54
5.1. 検査結果詳細画面の概要.....	54
6. トラブルシューティング.....	60
6.1. よくある質問とその解決策.....	60
7. 補足情報.....	62
7.1. ライセンスについて.....	62
8. サポートについて.....	62

1. はじめに

1.1. 本マニュアルについて

このマニュアルは、『AS MXF Checker Server』のインストール方法および管理画面の操作方法を解説しています。API仕様については、「AS MXF Checker Server API仕様書」をご覧ください。

1.2. 製品概要

『AS MXF Checker Server』は、XDCAM・XAVCのMXFファイルが規格に準拠しているかどうかを検査するソフトウェアのサーバーライセンス版です。APIやウォッチフォルダによるシステム連携や自動化を行うことができます。

検査やリラップ機能としては、「AS MXF Checker」(デスクトップ版)と同様です。

1.3. 動作環境

本製品は以下の環境で動作します。

対応OS	Windows系 Windows10以降(x64) WindowsServer2016以降 MacOS12以上 Linux(x64, ARM64 / Debian系(RaspberryPi OSを含む),Red Hat系)
メモリ	4GB以上 (LinuxでGUIを持たない場合、2GB以上)
ストレージ	100MB以上の空き容量 ただし、S3ストレージにリラップ結果のMXFファイルを書き出す場合、書き出す尺10分ごとに約350MiBの一次ストレージが必要です。

1.4. 注意点

本システムは、画面操作で検査などを行うデスクトップ版と異なり、APIとウォッチフォルダの機能のみが提供されます。画面操作によるファイルの検査などは行うことはできません。

2. インストールとセットアップ

2.1. ダウンロード手順

製品のダウンロードは、アンバーサインWebサイトのサブスクリプション管理ページから行います。ダウンロード時に使用許諾契約に同意する必要があります。

2.2. インストール方法

オンプレミスのサーバー上へのインストールは下記の通りとなりますが、クラウドや仮想環境へのインストールは次章の「クラウドや仮想環境上で動作させる場合」もご覧ください。

WindowsおよびMacOS

ダウンロードしたインストーラーを実行し、画面の指示に従ってインストールを進めます。インストールが完了した時点で、AS MXF Checker Serverのサービスが常駐し、ブラウザでアクセス可能な状態となります。通常は 9377番ポートですが、このポート番号が使用中だと他の番号になることがあります。

インストール時、AS MXF Checker ServerのWeb画面を開くランチャーアプリ(AS MXF Checker Server Portal)が同時にインストールされますので、それを実行することでブラウザが開き、管理画面にアクセスできます。

次回以降のアクセス用に、この時開いたページのポート番号をメモしてください。

Linux

ダウンロードした `asmxfchecker_server-x.x.x-linux.tar.gz` を展開し、

```
sudo ./install.sh
```

でインストールできます。インストールが完了した時点で、AS MXF Checker Serverのデーモンが常駐し、ブラウザでアクセス可能な状態となります。

インストール後に、稼働しているポート番号が表示されますのでメモしてください。通常、9377番ですが、このポート番号が使用中だと他の番号になることがあります。systemdおよびbashが利用できる環境を想定しているため、主にDebian系,Red Hat系はそのままご利用いただけます。

上記以外のLinux(Alpine系など)の場合でも、mxfcheckerd をご自身でデーモン化していただければご利用いただけます。環境変数の設定なども必要ですので、詳しくはサポートまでお問い合わせください。

2.3. クラウドや仮想環境上で動作させる場合

本ソフトウェアをクラウドや仮想環境上で動作させる場合、ライセンス認証にあたりハードウェアの識別を使用している関係で、インスタンスの再起動等に伴い、ハードウェアが変更されたと識別され、動作を停止してしまう恐れがあります。それを避けるため、当社が別途発行する「クラウドキー」を環境変数に設定する必要があります。クラウドキーは、サブスクリプションと紐づいており、インスタンスの状態が変わってもソフトウェアの使用を継続することが可能となります。

ソフトウェアをクラウドや仮想環境上で動作させる場合は、クラウドキーを発行しますのでアンバーサインサポートまでご連絡ください。(クラウドキーの発行は無料です)

[注意]

ライセンスのアクティベート作業は、クラウドキーを環境変数に登録してから行ってください。先にアクティベート作業を行うと、クラウドキーを利用しないライセンスが発行されます。

2.3.1. クラウドキーの設定方法

当社より発行するクラウドキーを下記の環境変数に設定してください。

AS_MXFCHKR_SV_CLOUD_KEY

設定を常駐用の設定ファイルの中に記述することもできます。

ファイルの変更は管理者権限で行う必要があります。

- Linux

systemd設定ファイル

/etc/systemd/system/asmxchecker_server.service

上記ファイルに

Environment=AS_MXFCHKR_SV_CLOUD_KEY=xxxx...

のように記述を追加します。

設定後、

```
sudo systemctl daemon-reload  
sudo systemctl restart asmxchecker_server.service
```

で、アプリケーションを再起動して適用してください。

- MacOS

LaunchDaemon設定ファイル

/Library/LaunchDaemons/jp.amber-sign.asmxchecker_server.plist

上記ファイル(XML形式)の「EnvironmentVariables」タグの下の<dict>タグの中に、

```
<key>AS_MXFCHKR_SV_CLOUD_KEY</key>  
<string>xxxx...</string>
```

のように記述します。

設定後、

```
sudo launchctl unload /Library/LaunchDaemons/jp.amber-sign.asmxchecker_server.plist  
sudo launchctl load /Library/LaunchDaemons/jp.amber-sign.asmxchecker_server.plist
```

で、アプリケーションを再起動して適用してください。

- Windows

WinSW設定ファイル

C:\Program Files\AS_MXF_Checker_Server\WinSW-mxfchecker.xml

上記ファイル(XML形式)に、

```
<env name="AS_MXFCHKR_SV_CLOUD_KEY" value="xxxx..." />
```

のように追記します。

設定後、コマンドプロンプトより、

“C:\Program Files\AS_MXF_Checker_Server\WinSW-mxfcheckerd.exe” restart

で、アプリケーションを再起動して適用してください。

(scコマンドや、Windowsサービスの画面から再起動してもOKです)

2.3.2. S3(互換ストレージを含む)を利用する場合

APIおよびウォッチフォルダーともに、S3(互換ストレージ含む)に対し入出力が可能です。
ファイルパスやウォッチフォルダーに、

s3://bucketname/xxxx/xxx

のように指定してください。

s3にアクセスするためには、環境変数または設定ファイルを用意する必要があります。(AWS CLIのインストールは不要です)

詳しくは[AWSのサイト](#)をご覧ください。

環境変数

AWS_ENDPOINT_URL_S3
AWS_REGION
AWS_ACCESS_KEY_ID
AWS_SECRET_ACCESS_KEY
AWS_SESSION_TOKEN
AS_S3_PATH_STYLE (※次章を参照してください)

設定ファイル

~/.aws/config
~/.aws/credentials

2.3.2.1. Path-style設定について

一部のS3互換ストレージでは、Path-style によるアクセスが必要な場合があります。
(Path-styleの例: https://s3.<region>.amazonaws.com/<bucket-name>/<key>)

aws cliの場合、~/aws/config に記述することでPath-styleによるアクセスも可能ですが、本アプリケーションのライブラリではconfigファイルでの指定は対応しておりません(記述しても無視されます)。

パススタイルでのアクセスが必要な場合、環境変数を下記のように指定してください。

- 全てのアクセスをPath-styleにする場合

```
AS_S3_PATH_STYLE=true
```

- 一部のバケットに対し、Path-styleを設定する場合
カンマ(,)区切りでバケット名を列挙してください。

```
AS_S3_PATH_STYLE=bucket-a,bucket-b
```

2.4. 初回パスワード認証とパスワード設定

インストール後、Web管理画面を開くとパスワード入力画面となります。

初期パスワードは、

ID	admin
パスワード	checker + 現在日付(yyyyMMdd) (本日が2026/02/05なら、checker20260205)

となります。

サーバー装置の時計がずれていたり、ロケーションの設定がずれているとログインできない場合がありますのでご注意ください。特にクラウド環境では、サーバー内の時計が日本時間でない場合があります。

初期パスワードでのログインが成功すると、パスワード登録画面が表示されます。パスワード登録を行わないとこの先に進めません。任意のパスワードを入力し、登録してください。

パスワード登録が済むまで、本システムは誰でも上記の初期パスワードでアクセス可能な状態ですので、速やかにパスワード登録を行うか、安全なネットワーク上で行ってください。

2.5. ライセンス登録

パスワード登録が完了すると、使用許諾契約への同意とライセンス認証が求められます。
(すでにライセンス登録済みの場合、スキップされます。)

ライセンス登録の詳細は、次章の[ライセンス認証とアクティベーション](#)をご覧ください。

3. ライセンス認証とアクティベーション

ライセンス登録がされていない場合やライセンスが切れるとアクティベーションが必要となります。

ライセンス認証には、オンライン認証とオフライン認証の2通りがあります。
環境に応じた方法でアクティベーションを完了させてください。

- オンラインライセンス認証 **<推奨>**

ソフトウェアがアンバーサインライセンスサーバーにアクセスし、サブスクリプション更新やプラン変更を自動で行います。

なお、商用ライセンスでは、処理数に応じて課金されるケースがございますので、この場合はオンラインライセンス認証が必須となります。

次の手順でライセンス認証を行うことができます。

1. ソフトウェア利用規約に同意のチェックをお願いします。
2. デバイス名を必要に応じて入力してください。サブスクリプション管理画面で表示されますので、わかりやすい名前をつけることをお勧めします。
3. 「アクティベーションする」のボタンを押してください。

4. アンバーサインWebサイトへ遷移します。ログインしていない場合、ログインを求められます。
5. ライセンスを適用するサブスクリプションを選択してください。ユーザーメモ欄に、端末に関するメモを入力することができます。必要に応じて入力してください。
6. 「ライセンスを適用する」ボタンを押してください。ライセンスが適用され、自動的にアプリケーションが使用可能になります。

ライセンスの適用

ライセンスを適用する
デバイス・製品

デバイス名	akinoMacBook-Air-2.local
OS	MacOS (Apple Silicon)
製品	AS MXF Audio Inserter
認証方法	オンライン

適用する
サブスクリプションの
選択

	製品名・プラン名	契約数	登録数	支払い サイクル	現在のご 利用期間	自動更新	ユーザーメモ
☒	AS MXF Audio Inserter Client Standard	1	0	1年	トライアル中 2025/4/24まで	☐	
☐	AS MXF Audio Inserter Client Standard	1	1	1年	トライアル中 2025/4/24まで	☐	
☐	AS MXF Audio Inserter Client Standard	1	0	1ヶ月	トライアル中 2025/4/24まで	☐	

ユーザーメモ

ライセンスを適用する >>



プロキシ経由でインターネットに接続している場合、デフォルトのプロキシ利用設定は「OS設定に従う」になっておりますので、通常はそのままプロキシ経由でオンラインライセンス認証が可能です。

ただし、以下の環境では、プロキシ設定のリンクをクリックして、「静的に指定する」をご選択いただき、プロキシサーバーのアドレスなどを登録してください。

- (MacOSおよびLinux)「自動プロキシ検出」「自動プロキシ構成」を利用してプロキシを利用している環境
- プロキシにID、パスワードが必要な環境

- オフラインライセンス認証

インターネットに接続できない環境でソフトウェアを利用するための方式です。サブスクリプションの更新ごとに手動で新しいライセンスファイルを適用する必要があります。

特にサーバーソフトウェアでは、APIのみを利用されているとライセンス切れに気づかずに動作が停止する恐れがありますので特にご注意ください。

次の手順でライセンス認証を行うことができます。

1. ソフトウェア利用規約に同意のチェックをお願いします。
2. デバイス名を必要に応じて入力してください。サブスクリプション管理画面で表示されますので、わかりやすい名前をつけることをお勧めします。
3. 「デバイス認証ファイルをダウンロード」ボタンを押すと、「AS-Device-authentication.txt」という名前のファイルがダウンロードされます。これがデバイス認証ファイルです。

☒ ソフトウェア利用規約および関連規定に同意します

ライセンス認証に必要な情報を入力してください。

デバイス名

必須ではありませんがサブスクリプション管理画面で表示されるため、分かりやすい名前をつけることをお勧めします。

認証方法 ☐ オンライン
(普段デバイスはインターネットに接続されています) <お勧め>

☒ オフライン
(普段デバイスはインターネットに接続されていません)

オンライン認証の場合、サブスクリプションの更新時に自動でライセンス認証が更新されます。
オフライン認証の場合、サブスクリプションの更新時に手動でライセンス更新を行う必要があります。

[デバイス認証ファイルをダウンロード](#)

4. 別のPCなどでアンバーサインWebサイトを開き、「サブスクリプション画面」に「オフラインライセンスを適用する」というメニューがありますのでそれをクリックしてください。

サブスクリプションの管理

No.	製品名	契約数	登録数	支払い サイクル	現在の ご利用期間	自動 更新	支払 方法	ユーザーメモ	
1	☒ AS MXF Audio Inserter Client Standard	1	0	1年	トライアル中 2025/4/24まで	☐	カード		ダウンロード デバイス管理
2	☒ AS MXF Audio Inserter Client Standard	1	1	1年	トライアル中 2025/4/24まで	☐	カード		ダウンロード デバイス管理
3	☒ AS MXF Audio Inserter Client Standard	1	0	1ヶ月	トライアル中 2025/4/24まで	☐	カード		ダウンロード デバイス管理

[クレジットカード変更および領収書発行 >>](#)

オフラインライセンスの適用・解除はこちら

- ▶ オフラインライセンスを適用する（デバイス認証ファイルが必要です）
- ▶ オフラインライセンスを解除する（ライセンス解除要求ファイルが必要です）

5. 「オフラインによるライセンス適用」画面で、さきほどダウンロードした「デバイス認証ファイル」を読み込ませてください。
6. ライセンスを適用するサブスクリプションを選択してください。ユーザーメモ欄に、端末に関するメモを入力することができます。必要に応じて入力してください。
7. 「ライセンスを適用する」ボタンを押してください。「ライセンスファイル」(AS-License.txt) がダウンロードされます。

オフラインによるライセンス適用

デバイス認証ファイル

ファイルを選択

AS Device...tion (14).txt

ライセンスを適用する
デバイス・製品

デバイス名

akinoMacBook-Air-2.local

OS

MacOS (Apple Silicon)

製品

AS MXF Audio Inserter

認証方法

オフライン

適用する
サブスクリプションの
選択

	製品名・プラン名	契約数	登録数	支払い サイクル	現在の ご利用期間	自動更新	ユーザーメモ
☒	AS MXF Audio Inserter Client Standard	1	0	1年	トライアル中 2025/4/24まで	☐	
☐	AS MXF Audio Inserter Client Standard	1	1	1年	トライアル中 2025/4/24まで	☐	
☐	AS MXF Audio Inserter Client Standard	1	0	1ヶ月	トライアル中 2025/4/24まで	☐	

ユーザーメモ

[<< 元のページへ戻る](#)

[ライセンスを適用する >>](#)

8. ソフトウェアのライセンス認証画面に戻り、一番下にある「オフラインライセンス登録」のメニューから、先ほどダウンロードしたライセンスファイル

を読み込ませ、「ライセンスを登録する」ボタンを押してください。これでアプリケーションが使用可能になります。

オフラインライセンス登録

※オンライン認証の方はこの機能は使用しません

サーバーからダウンロードしたライセンスファイルを登録してください。

ライセンスファイルの登録

ファイルを選択

選択されていません

ライセンスを登録する

3.1. ライセンスの更新

オフラインライセンスの場合、サブスクリプション期間の更新の際に、新しいライセンスファイルを適用する必要があります。新しいライセンスの適用は、現在のライセンス期間終了後、猶予期間（通常14日間。トライアルの場合、3日間）内に行うことができます。猶予期間を過ぎるとアプリケーションが使用不可になりますのでご注意ください。

1. アンバーサインWebページの「サブスクリプション管理」画面の中の「デバイス管理」ボタンを押してください。

サブスクリプションの管理

No.	製品名	契約数	登録数	支払いサイクル	現在のご利用期間	自動更新	支払方法	ユーザーメモ	
1	AS MXF Audio Inserter Client Standard	1	1	1年	トライアル中 2025/4/24まで	○	カード		ダウンロード デバイス管理
2	AS MXF Audio Inserter Client Standard	1	1	1年	トライアル中 2025/4/24まで	○	カード		ダウンロード デバイス管理
3	AS MXF Audio Inserter Client Standard	1	0	1ヶ月	トライアル中 2025/4/24まで	○	カード		ダウンロード デバイス管理

2. 「デバイス管理」画面から、新しいライセンスを適用したいデバイスのライセンスファイルをダウンロードしてください。

デバイスの管理

製品名	契約数	登録数	支払いサイクル	現在のご利用期間	自動更新	ユーザーメモ
AS MXF Audio Inserter Client Standard	1	1	1年	トライアル中 2025/4/24まで	○	

No.	端末・サーバー名	OS	登録日	認証方法	お知らせ	ユーザーメモ
1	akinoMacBook-Air-2.local	MacOS (Apple Silicon)	2025/4/12	オフライン		ライセンスファイル

3. ソフトウェアの管理画面に遷移し、「ライセンス更新」メニューから先ほどダウンロードしたライセンスを選択してください。「ライセンス期限」が更新されれば完了です。

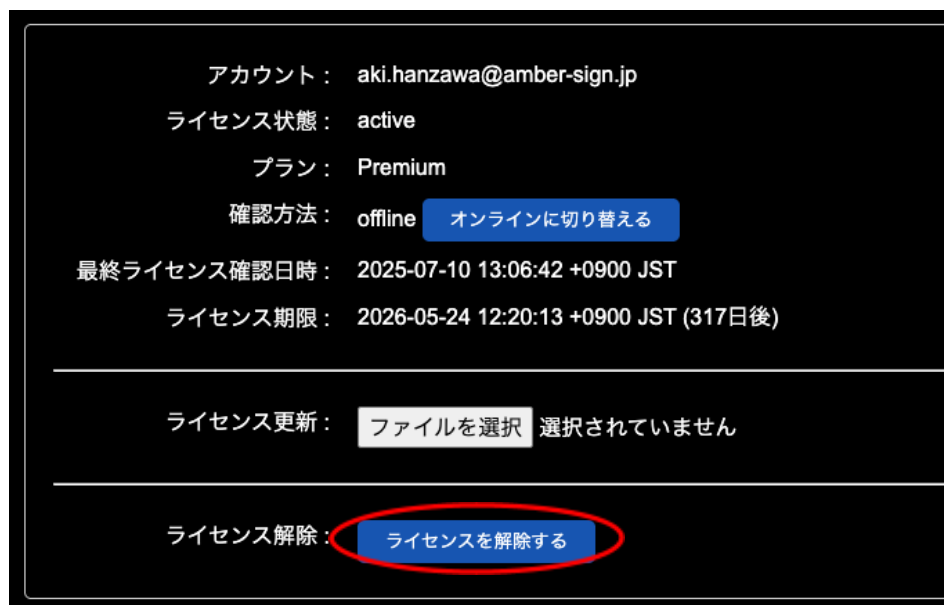
アカウント :	aki.hanzawa@amber-sign.jp
ライセンス状態 :	active
プラン :	Premium
確認方法 :	offline オンラインに切り替える
最終ライセンス確認日時 :	2025-07-10 13:06:42 +0900 JST
ライセンス期限 :	2026-05-24 12:20:13 +0900 JST (317日後)
ライセンス更新 :	ファイルを選択 選択されていません
ライセンス解除 :	ライセンスを解除する

※ オンラインライセンスの場合、自動的に新しいライセンスが適用されますので何もする必要はありません。

3.2. ライセンスの解除

端末やサーバーの更新などでライセンスを移行する必要がある場合、現在ご利用中の端末・サーバーからライセンスを解除し、新しい端末・サーバーに改めてライセンスを適用していただくことができます。

1. ソフトウェアの管理画面に遷移し、「ライセンス解除」ボタンを押してください。
オンラインライセンスの場合、以上でライセンスの解除は完了です。解除した端末・サーバーではもうソフトウェアはご利用いただけません。アンバーサインWebサイトより、ライセンスが戻っていることをご確認ください。
オフラインライセンスの場合、「ライセンス解除要求ファイル」(AS-Request-Deactive.txt)がダウンロードされます。この時点で端末ではソフトウェアがご利用いただけなくなります。「ライセンス解除要求ファイル」をアンバーサインWebサイトより正しく適用しないと、ライセンスが利用不能になりますのでご注意ください。



The screenshot displays the 'License Management' page of the Amber Sign software. It features a dark background with white text. The license details are as follows:

アカウント :	aki.hanzawa@amber-sign.jp
ライセンス状態 :	active
プラン :	Premium
確認方法 :	offline オンラインに切り替える
最終ライセンス確認日時 :	2025-07-10 13:06:42 +0900 JST
ライセンス期限 :	2026-05-24 12:20:13 +0900 JST (317日後)

Below the details, there are two sections:

- ライセンス更新 :** A button labeled 'ファイルを選択' (Select File) and the text '選択されていません' (Not selected).
- ライセンス解除 :** A button labeled 'ライセンスを解除する' (Deactivate License), which is highlighted with a red circle.

2. アンバーサインWebサイトに遷移し、サブスクリプション管理画面下部の「オフラインライセンスを解除する」をクリックしてください。

サブスクリプションの管理

No.	製品名	契約数	登録数	支払い サイクル	現在の ご利用期間	自動 更新	支払 方法	ユーザーメモ	
1	☒ AS MXF Audio Inserter Client Standard	1	1	1年	トライアル中 2025/4/24まで	○	カード		ダウンロード デバイス管理
2	☒ AS MXF Audio Inserter Client Standard	1	1	1年	トライアル中 2025/4/24まで	○	カード		ダウンロード デバイス管理
3	☒ AS MXF Audio Inserter Client Standard	1	0	1ヶ月	トライアル中 2025/4/24まで	○	カード		ダウンロード デバイス管理

[クレジットカード変更および領収書発行 >>](#)

オフラインライセンスの適用・解除はこちら

- » オフラインライセンスを適用する (デバイス認証ファイルが必要です)
- » オフラインライセンスを解除する (ライセンス解除要求ファイルが必要です)

3. ライセンス解除画面で、先ほどダウンロードした「ライセンス解除要求ファイル」を入力し、「ライセンスを解除する」ボタンを押してください。これで解除したライセンスが再び使用可能な状態に戻ります。

ライセンスの解除

ライセンス解除要求ファイル

ファイルを選択

AS Reque...ctive (1).txt

デバイス情報

デバイス名

akinoMacBook-Air-2.local

OS

MacOS (Apple Silicon)

認証方法

オフライン

ユーザーメモ

解除するライセンス

製品

AS MXF Audio Inserter Client Standard

契約期間

トライアル中 2025/4/24まで

自動更新

有

契約数

1

登録数

1 → 2

ユーザーメモ

<<

元のページへ戻る

ライセンスを解除する

>>

4. Web管理画面の使い方

4.1. アクセス

ブラウザを開き、インストールのときにメモしたポート番号にhttpでアクセスしてください。例えば、サーバーのIPが 10.10.10.10 で、ポート番号が 9377番の場合、アクセス先は、
http://10.10.10.10:9377/
となります。

なお、Windows版・MacOS版をお使いの場合、「AS MXF Checker Server Portal」のアイコンを起動すると、ブラウザが起動し、Web管理画面が開きます。



AS MXF Checker
Server Portal

4.2. ログイン

Web管理画面を利用するにはログインが必要です。ID、パスワードを入力し、ログインしてください。ログイン後、一定時間が経過すると自動でログアウトされます。(一部の画面を除く)

4.3. ログイン後の画面の基本

ログインすると、下記の画面に遷移します。



メニューエリア(①)

各設定のメニューに遷移できるエリアです。

メインエリア(②)

選択したメニューの内容が表示されるエリアです。

ログイン表示(③)

ログイン中のIDが表示されます。クリックすると、ログアウトのメニューが表示されます。



4.4. ステータスメニュー

4.4.1. ステータス表示メニュー

AS MXF Checker Serverの状態を表示するメニューです。本画面は定期的に自動更新され、最新の状況が常に表示されます。

ステータス	処理件数 ?
ステータス	
処理履歴	
設定	
基本設定	
検査項目設定	
ウォッチフォルダー	
システム設定	
Web UI設定	
監視設定	
プロキシ設定	
ユーザー管理	
パスワード変更	
ライセンス	
ライセンス設定	
このアプリについて	

ファイル数	検査数	リラップ数
本日	0	0
昨日	9	7
今月	72	119
先月	2	3

設定数	稼働数
6	1

確保メモリ	ヒープ使用量	OS物理メモリ
22 MiB	2 MiB	16384 MiB
OS空きメモリ	4203 MiB	

各項目の意味は以下の通りです。

処理件数	本日、昨日、今月、先月のファイル登録数、検査数、リラップ数が表示されます。 カウントはUTC時刻で行われますので、日本時間午前9時が日替わりとなります。
検査項目セット	検査項目として登録されているセット数を表示します。 デフォルトで「標準」「厳密」「標準+デッキインサートNG検出」「厳密+デッキインサートNG検出」の4セットが登録されています。
ウォッチフォルダ	ウォッチフォルダの設定数と、そのうち稼働している数が表示されます。

メモリ状況	サーバーアプリケーションがOSから確保しているメモリと、そのうち実際に使用しているメモリ(ヒープ)、OSの物理メモリ量、OSの空きメモリ量が表示されます。 特にクラウド環境で、メモリ量に制限がある場合にこちらの状態を参考にしてください。
-------	--

4.4.2. 処理履歴

AS MXF Checker Serverの各処理の履歴を検索・表示するメニューです。

履歴の保持日数は、後述の基本設定の中で行います。削除された履歴は検索にも表示されなくなります。

Amber Sign AS MXF Checker Server admin

検索条件 ①

日付 2026/07/26 ~ 2026/08/04 ファイル名 種類 ● ファイル ● 検索 ● リラップ

検索 ②

ファイル名 ③	状態	④	サイズ	フォーマット	登録／処理開始日時	処理時間
サンプル素材(CMオンライン15秒).mxf	処理中 70%	詳細画面へ	0.21 GB	XDCAM MPEGHD422	2026-08-04 03:26:29	
サンプル素材(CMオンライン15秒).mxf	正常終了	詳細画面へ	0.21 GB	XDCAM MPEGHD422	2026-08-04 03:26:28	2s
サンプル素材(CMオンライン15秒).mxf	正常終了	詳細画面へ	0.21 GB	XDCAM MPEGHD422	2026-08-04 03:26:27	2s
サンプル素材(CMオンライン15秒).mxf	正常終了	詳細画面へ	0.21 GB	XDCAM MPEGHD422	2026-08-04 03:26:25	2s
サンプル素材(CMオンライン15秒).mxf	正常終了	詳細画面へ	0.21 GB	XDCAM MPEGHD422	2026-08-04 03:26:23	2s
サンプル素材(CMオンライン15秒).mxf	正常終了	詳細画面へ	0.21 GB	XDCAM MPEGHD422	2026-08-04 03:26:21	2s
サンプル素材(CMオンライン15秒).mxf	正常終了	詳細画面へ	0.21 GB	XDCAM MPEGHD422	2026-08-04 03:26:20	2s
サンプル素材(CMオンライン15秒).mxf	正常終了	詳細画面へ	0.21 GB	XDCAM MPEGHD422	2026-08-04 03:26:17	2s
サンプル素材(CMオンライン15秒).mxf	正常終了	詳細画面へ	0.21 GB	XDCAM MPEGHD422	2026-08-04 03:26:15	2s
サンプル素材(CMオンライン15秒).mxf	正常終了	詳細画面へ	0.21 GB	XDCAM MPEGHD422	2026-08-04 03:26:13	2s

検索条件(①)

日付、ファイル名、種別から検索条件を指定します。

日付はUTC時間のため、日本時間午前9時で区切られます。

ファイル名は部分一致でヒットします。

検索ボタン(②)

検索条件にしたがって検索し、該当するものを表示します。

検索表示エリア(③)

検索結果を表示するエリアです。

「登録／処理開始日時」は、処理開始前は登録日時、処理開始後は処理開始日時が表示され、マウスオーバーでそれぞれのミリ秒までの時間が表示されます。

詳細画面へボタン(④)

種別が「チェック」のときのみ表示されます。検査結果を表示するページにリンクします。チェック結果表示画面については、[検査結果詳細画面](#)をご覧ください。

4.5. 設定メニュー

AS MXF Checker Serverの動作に関する設定を行うメニューです。

4.5.1. 基本設定



設定項目	値
検査並行稼働数	3
リラップ並行稼働数	3
履歴保持日数	30

検査並行稼働数

APIやウォッチフォルダでファイルの検査を行う際、並行していくつ稼働させるかを設定します。上限はライセンスによって異なり、標準は3です。

リラップ並行稼働数

APIやウォッチフォルダでファイルのリラップを行う際、並行していくつ稼働させるかを設定します。上限はライセンスによって異なり、標準は3です。

履歴保持日数

履歴の保持期間です。デフォルトでは30日間で設定されています。ここで指定した期間を過ぎると自動で削除されます。

4.5.2. 検査項目設定

検査結果のエラーレベルを個別に設定することができる画面です。

標準で組み込まれている「標準」「厳密」「標準+デッキインサートNG検出」「厳密+デッキインサートNG検出」で運用する場合は本画面の設定は不要です。特定の検査項目について抑止したい場合などに設定することができます。

個別に設定した検査項目を「検査項目セット」として保存し、APIやウォッチフォルダーで指定することができます。

message_id	レベル	メッセージ
NoRandomIndexPack	H: Error	Random Index Packがありません。
NoFooterPartition	H: Error	Footer Partitionがありません
IdentificationsNotFound	H: Warning	Identifications Setがありません
PrefaceSet_ContentStorageUIDWrong	H: Warning	Preface Set の content Storage UID が誤っています。preface={{uid1}}, contentStorageUID={{uid2}}
ContentStorageSet_NotFound	H: Error	Content Storage Set の Package UID {{uid1}} が見つかりません。
ContentStorageSet_MaterialPackageUIDNotFound	H: Error	Content Storage Set の Material Package UID が見つかりません
ContentStorageSet_FilePackageUIDNotFound	H: Error	Content Storage Set の File Package UID が見つかりません
ContentStorageSet_EssenceContainerDataUIDNotFound	H: Error	Content Storage Set の Essence Container Data UID が見つかりません
MaterialPackage_Timecode12MComponentSetNotFound	H: Error	MaterialPackage に Timecode 12M Component Set がありません。Duration, DropFrame, StartTCが不明です。
FilePackage_Timecode12MComponentSetNotFound	H: Error	FilePackage に Timecode 12M Component Set がありません。Origin, Fpsが不明です。
FilePackage_multipleDescriptorSetNotMatch	H: Warning	FilePackage に Descriptor または SubDescriptor {{uid}} がありません
UnknownFormat	H: Warning	不明なフォーマットです
Error_MXFHeader	H: Error	{{error}}
Error_MXFFile	H: Error	{{error}}

検査項目セット選択(①)

設定する検査項目セットを選択します。

「コピーして新規作成」を選ぶと、現在表示されているセットを元に、新規に作成できます。

「新規作成」を選ぶと、新規に作成できます。

セット名入力(②)

作成するセットに名前をつけることができます。作成した名前は、各画面や検査証明書PDFに表示されます。

ベース検査項目(③)

作成する検査項目セットの、ベースとなる検査項目を選択します。検査項目は多岐にわたり、すべてを0から設定するのは難しいため、ベースを選択し、そのベースに対し変更するものだけを設定する、という考え方となります。

デフォルトで登録されている「標準」の検査項目セットがすべての検査項目セットの親となります。

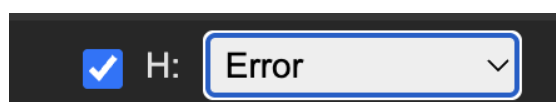
検査項目設定エリア(④)

各検査項目ごとのレベルを設定できます。

ベースから変更したい項目にチェックボックスをつけるとその項目に対してのエラーレベルを設定できます。チェックボックスをつけていない項目はベースのレベルが適用されます。

各検査項目やメッセージ内容は、API仕様書に記載しておりますのでそちらもご覧ください。

レベルの手前の H: A: J: O: は検査項目の種類を表しています。



種類	説明
H:	MXFのヘッダーメタデータに関する検査項目です。
A:	MXFの全体(各パーティションやIndex等)についての検査項目です。
J:	民放連の基準に関する検査項目です。検査時に、民放連検査を実施しない設定をするとこの種類は全体が検査対象外になります。 一部の検査項目については、他の種類の検査項目に、民放連検査項目がダブルで設定されている場合があります。
O:	その他の検査の種類です。(規格上は問題ないが、注意が必要なものなど)

エラーレベルは下記の6段階です。

エラーレベル	説明
None	検査を行いません。
Information	ユーザーには通知しませんが、情報として検査ログには出力します。

InformationPlus	情報としてユーザーに通知しますが、検査結果としてOK(○)の扱いとなります。
Warning	警告です。検査結果としてWarning(△)の扱いとなります。
Error	エラーです。検査結果NG(×)の扱いとなります。
Critical	検査が継続できないようなクリティカルなエラーです。

セットID表示(⑤)

表示している検査項目セットのIDが表示されます。新規作成時は、保存したタイミングで発行されます。

ここに表示されているIDを、APIの検査項目セットIDとして指定することができます。

4.5.3. ウォッチフォルダー設定

ウォッチフォルダー機能は、ウォッチフォルダーパスで指定したフォルダをポーリングで監視し、拡張子mxfのファイルを発見したときに、検査やリラップ等の処理を行い、結果フォルダパスにその結果を生成する機能です。

ウォッチフォルダー設定選択

すでに保存されているウォッチフォルダー設定を選択、または新規作成を選択してください。

有効

チェックをつけると設定された内容でウォッチフォルダー機能がポーリング監視を開始します。一時的に監視を止めたい場合はこの設定をオフにしてください。

設定名

ウォッチフォルダーの名称を設定してください。

ウォッチフォルダーパス

ウォッチフォルダーにしたいフォルダのパスを入力してください。

Windowsの場合、フォルダーを右クリックして「パスのコピー」、
MacOSの場合、フォルダーをOptionキーを押しながら右クリックして「パスのコピー」、
でパスを取得して、ペーストするのがお勧めです。

s3を指定する場合、s3://バケット名/xxxx/xxx の形式で指定してください。

結果フォルダーパス

検査結果や、検査対象ファイルは結果フォルダーパスで指定した場所に移動されます。

結果フォルダーには下記変数を利用できます。

<code>\${yyyy}</code>	現在の年
<code>\${mm}</code>	現在の月(01-12)
<code>\${dd}</code>	現在の日(01-31)
<code>\${HH}</code>	現在の時間(00-23)
<code>\${MM}</code>	現在の分(00-59)
<code>\${SS}</code>	現在の秒(00-59)
<code>\${MS}</code>	現在のミリ秒(000-999)
<code>\${file}</code>	MXFファイル名(拡張子を除く)
<code>\${watch}</code>	ウォッチフォルダーのパス
<code>\${random}</code>	英小文字と数字のランダムな3文字

空欄にすると、デフォルトで、

`${watch}/result/${yyyy}${mm}${dd}_${HH}${MM}${SS}_${random}`

となります。

ウォッチフォルダーから結果フォルダーにファイルを移動する際、同名のmxファイルがあった場合、元のファイルは置き換えられて消えてしまいます。よって、結果フォルダーには日時などの情報を付与して都度、別々のフォルダー名になるよう工夫してください。

ファイル処理方法

ウォッチフォルダーで発見したファイルをどのように処理するかを選択します。

「オリジナルファイルを結果フォルダーに移動する」

発見したMXFファイルを結果フォルダーの中に移動させます。過去バージョンからご利用の場合、デフォルトはこの設定になります。

なお、移動先は同じ元ファイルと同じファイルシステムのみとなります。結果フォルダーが他のファイルシステムにある場合や、移動という概念がないs3フォルダをご利用の場合、下記の移動しない設定をご利用ください。

「ファイルを移動せず、正常終了後にdoneマーカを置く」

mxファイルを移動せず、「元ファイル名＋拡張子」のマーカファイルを置く形とします。

マーカは下記の4パターンあります。

処理中	.processing
処理終了	.done
処理失敗	.failed
処理中断	.canceled

「ファイルを移動せず、処理終了後に元ファイルを削除する」

mxファイルを移動せず、処理終了後にmxファイルを削除します。（成功でも失敗でも削除されます。）

処理中のみ、「.processing」のマーカファイルを配置します。

開始条件

コピー中や書き出し中の途中状態のファイルで処理が開始されないようにするための設定です。

「対象ファイルを発見したらすぐ」「対象ファイルに変化がなくなってからN秒後」から選択します。後者の場合、秒数を指定します。

ポーリング間隔

ウォッチフォルダーをポーリングで監視するためその間隔を指定します。デフォルトは通常のフォルダの場合 1秒、S3の場合 10秒です。

S3では間隔を短くすると、リクエスト数に応じた課金が発生する恐れがありますのでご注意ください。

実施処理

発見したファイルに実施したい処理をチェックボックスで設定します。ファイルを検査する場合は「チェック」、ファイルをリラップする場合は「リラップ」をオンにします。両方オンにすることもできます。

検査項目セット

検査を行う場合の検査項目セット(標準、厳密、その他独自に設定したもの)を選択します。

検査結果出力

検査結果フォルダに出力する情報を選択します。

「検査証明書PDF」「検査ログ」「ファイル詳細情報」「インデックス情報」をそれぞれオン・オフをします。「ZIP圧縮する」をオンにすると「検査ログ」「ファイル詳細情報」「インデックス情報」の3つをzip圧縮して出力します。

民放連規格チェック

検査時に民放連規格の検査を行わない場合、チェックを外します。

ラウドネス検査チャンネル

ラウドネス測定を行うチャンネルを「ステレオ」「デュアルステレオ」「5.1ch+S」から選択します。

リラップ開始条件

リラップを開始する際の条件を指定できます。「検査と同時に開始」がデフォルトです。

下記の条件が指定できます。

- ✓ 検査と同時に開始
- 検査終了後に開始
- 検査結果に NG(x) がある
- 検査結果に NG(x) または警告 (Δ) がある
- MXF ヘッダまたは MXF 全体に NG(x) がある
- MXF ヘッダまたは MXF 全体に NG(x) または警告 (Δ) がある
- 民放連検査に NG(x) または警告 (Δ) がある
- 条件式で指定

「条件式で指定」を指定すると、条件式入力欄が表示されます。

条件式で指定

source.mxf_overall == "ng"

?

変数として検査結果を使った条件式を指定でき、条件式が真の場合にリラップを開始します。条件式の構文は、[条件式構文について](#)の章をご覧ください。

以下の変数が利用できます。

source.mxf_header	検査のMXFヘッダ結果
source.mxf_overall	検査のMXF全体結果
source.jba	検査の民放連結果
source.other	検査のその他結果
source.job_status	検査のジョブ状態
source.message_ids	検査で検出された message_id の配列

結果値	"ok" (○)
	"warning" (△)
	"ng" (×)
	"excluded" (検査対象外)
ジョブ状態	"SUCCEEDED" (完了)
	"FAILED" (失敗)
	"CANCELED" (キャンセル)
	message_id

たとえば、測定結果でXDCAMデッキインサートNG時が検出されたら、リラップを行いたい、という場合、

“OtherXdcamInsertNg_I” in source.message_ids

と条件に指定します。

リラップMXFファイル名

リラップ出力のファイル名を入力します。

相対パスで入力した場合、結果フォルダーパスからの相対パスになります。

絶対パスで入力した場合、そのパスになります。

変数には、結果フォルダーパスで指定できる変数に加え、

<code>\${result}</code>	結果フォルダーパス
-------------------------	-----------

を使用できます。ただし、`${random}` は使用できません。

空欄の場合、デフォルトで、`${file}_rewrap.mxf` となります。

出力完了後リネームする

オンにするとリラップ出力時に、ダミーの拡張子で書き出しを行い、完了後にリネームを行います。出力先がs3の場合は指定できません。

リラップオプション

「XDCAMデッキインサート不可ファイル(vbv_delay)の修正」にチェックを入れるとリラップ時にMPEG2の vbv_delay値を補正します。Premiere25.3以降で書き出したファイルでXDCAMデッキでインサートRECエラーが発生する場合に、この機能でリラップをすることで修正ができる場合があります。XDCAMデッキでインサートRECできることを保証するものではありません。

リラップ後ファイル検査

オンにすると、リラップ後のMXFファイルを検査し、その結果を結果フォルダーに格納します。

処理後コマンド

検査後、またはリラップ後に指定したコマンドを実行することができます。

ウォッチフォルダに投げ込んだあとの処理を自動化したい場合などにご活用ください。

「+コマンドを追加」ボタンを押すとコマンド指定ができます。

複数のコマンドを指定した場合、上から順に処理されます。同時には実行されません。

設定名	設定内容
有効	コマンドを実行する場合チェックをオンにします
設定名	実行するコマンドを識別できる名称などを入力してください
実行タイミング	「元ファイル検査後」「リラップ後」「リラップ後のファイル検査後」から選択できます
実行条件	コマンドを実行する条件を選択します。

	✓ 常に実行 - 検査結果に NG(x) がある - 検査結果に NG(x) または警告 (Δ) がある - MXF ヘッダまたは MXF 全体に NG(x) がある - MXF ヘッダまたは MXF 全体に NG(x) または警告 (Δ) がある - 民放連検査に NG(x) または警告 (Δ) がある - 条件式で指定 「条件式で指定」を選択した場合、数式での指定ができます。条件式の構文は、条件式構文についての章をご覧ください。 変数には、リラップ開始条件の変数と同じものの他、実行タイミングに「リラップ後のファイル検査後」を指定した場合、下記の変数も利用できます。 <table> <tr> <td>rewrapped.file</td><td>リラップ後検査のファイル名</td></tr> <tr> <td>rewrapped.fullpath</td><td>リラップ後検査のフルパス</td></tr> <tr> <td>rewrapped.mxf_header</td><td>リラップ後検査のMXFヘッダ結果</td></tr> <tr> <td>rewrapped.mxf_overall</td><td>リラップ後検査のMXF全体結果</td></tr> <tr> <td>rewrapped.jba</td><td>リラップ後検査の民放連結果</td></tr> <tr> <td>rewrapped.other</td><td>リラップ後検査のその他結果</td></tr> <tr> <td>rewrapped.job_status</td><td>リラップ後検査のジョブ状態</td></tr> <tr> <td>rewrapped.message_ids</td><td>リラップ後検査で検出された message_id の配列</td></tr> </table>	rewrapped.file	リラップ後検査のファイル名	rewrapped.fullpath	リラップ後検査のフルパス	rewrapped.mxf_header	リラップ後検査のMXFヘッダ結果	rewrapped.mxf_overall	リラップ後検査のMXF全体結果	rewrapped.jba	リラップ後検査の民放連結果	rewrapped.other	リラップ後検査のその他結果	rewrapped.job_status	リラップ後検査のジョブ状態	rewrapped.message_ids	リラップ後検査で検出された message_id の配列
rewrapped.file	リラップ後検査のファイル名																
rewrapped.fullpath	リラップ後検査のフルパス																
rewrapped.mxf_header	リラップ後検査のMXFヘッダ結果																
rewrapped.mxf_overall	リラップ後検査のMXF全体結果																
rewrapped.jba	リラップ後検査の民放連結果																
rewrapped.other	リラップ後検査のその他結果																
rewrapped.job_status	リラップ後検査のジョブ状態																
rewrapped.message_ids	リラップ後検査で検出された message_id の配列																
実行ファイル	実行するプログラムのフルパスを入力します。 コマンドはAS MXF Checker Serverを実行しているユーザーの権限で実行されます。実行ファイルや引数の設定は、セキュリティに十分注意してください。 環境変数、「>」「 」などのシェル機能は使えません。																
引数	1行1引数で入力します。ファイル名等にスペースがある場合でも、"などで包む必要はありません。 下記の変数が使用できます。 <table> <tr> <td>\${yyyy}</td><td>現在の年</td></tr> <tr> <td>\${mm}</td><td>現在の月(01-12)</td></tr> <tr> <td>\${dd}</td><td>現在の日(01-31)</td></tr> <tr> <td>\${HH}</td><td>現在の時間(00-23)</td></tr> <tr> <td>\${MM}</td><td>現在の分(00-59)</td></tr> </table>	\${yyyy}	現在の年	\${mm}	現在の月(01-12)	\${dd}	現在の日(01-31)	\${HH}	現在の時間(00-23)	\${MM}	現在の分(00-59)						
\${yyyy}	現在の年																
\${mm}	現在の月(01-12)																
\${dd}	現在の日(01-31)																
\${HH}	現在の時間(00-23)																
\${MM}	現在の分(00-59)																

<code>\${SS}</code>	現在の秒(00-59)
<code>\${MS}</code>	現在のミリ秒(000-999)
<code>\${file}</code>	元MXFファイル名(拡張子を除く)
<code>\${watch}</code>	ウォッチフォルダーのパス
<code>\${result}</code>	結果フォルダー
<code>\${source.fullpath}</code>	元MXFファイルのフルパス
<code>\${source.mxf_header}</code>	元ファイルのMXFヘッダ検査結果
<code>\${source.mxf_overall}</code>	元ファイルのMXF全体検査結果
<code>\${source.jba}</code>	元ファイルの民放連検査結果
<code>\${source.other}</code>	元ファイルのその他検査結果
<code>\${source.message_ids}</code>	元ファイルの検査結果 message-id配列(JSON形式)
<code>\${source.job_status}</code>	元ファイル検査のジョブ状態
<code>\${rewrapped.file}</code>	リラップ後ファイル名(拡張子を除く)
<code>\${rewrapped.fullpath}</code>	リラップ後ファイルのフルパス
<code>\${rewrapped.mxf_header}</code>	リラップ後ファイルのMXFヘッダ検査結果
<code>\${rewrapped.mxf_overall}</code>	リラップ後ファイルのMXF全体検査結果
<code>\${rewrapped.jba}</code>	リラップ後ファイルの民放連検査結果
<code>\${rewrapped.other}</code>	リラップ後ファイルのその他検査結果
<code>\${rewrapped.message_ids}</code>	リラップ後ファイルのmessage-id配列(JSON形式)
<code>\${rewrapped.job_status}</code>	リラップ後ファイル検査のジョブ状態

保存ボタン

入力したウォッチフォルダー設定を保存します。

保存した直後から動作が開始されます。

ゴミ箱ボタン

選択されたウォッチフォルダー設定を削除します。

4.6. システム設定メニュー

システム全般の設定を行うメニューです。

4.6.1. Web UI設定



The screenshot shows a dark-themed settings window titled 'Web UI設定'. It contains three main configuration rows:

- Web UIポート番号**: A text input field containing '9377'.
- Web UI 接続可能アドレス範囲**: A text input field containing '0.0.0.0' followed by a dropdown menu showing '0' and a help icon.
- サーバーURL**: A dropdown menu set to '自動' (Automatic), followed by a right-pointing arrow and a text field containing 'http://192.168.1.140:9377/' with a help icon.

A blue 'Save' button is located at the bottom center of the settings area.

Web UIポート番号

Web設定画面のポート番号を指定できます。デフォルトから変更したい場合にご利用ください。

Web UI接続可能アドレス範囲

Web設定画面に接続可能なIPアドレスの範囲を指定できます。デフォルトは、0.0.0.0/0(すべてのアドレスから接続可)です。

本機能で接続可能なアドレス範囲は一種類のみとなりますので、複雑な制御をしたい場合は、OSやFWの機能をご利用ください。

サーバーURL

Web設定画面やAPIに接続するアドレスやURLを指定します。

この設定をしなくてもWeb設定画面への接続はできますが、ここで指定したURLが、APIの返り値でURLを返す場合などに利用されるため、有効な値を指定してください。

「自動」「手動入力する」およびNICのアドレスから選択できます。

自動を選択した場合、既存のNICの若いものから一つ選択されます。

「手動入力する」を選択した場合、URLを手入力することができます。

これは例えばローカルのアドレスと公開アドレスが異なる場合や、DNS名でアクセスさせたいケースなどに任意に指定してください。

4.6.2. 監視設定

本システムでは、HTTPヘルスチェックとSNMP Trap送信に対応しています。(SNMP MIBには対応していません。)

監視の詳細については、監視についてをご覧ください。



監視用httpポート番号	9378
監視用http接続可能アドレス範囲	127.0.0.1 / 32
Community	public
Trap通知先	10.10.10.10
<button>Save</button>	

監視用httpポート番号

HTTPヘルスチェックのポート番号を指定します。デフォルトは、9378番です。

監視用http接続可能アドレス範囲

Web設定画面に接続可能なIPアドレスの範囲を指定できます。デフォルトは、127.0.0.1/32(ローカルのみ)です。

本機能で接続可能なアドレス範囲は一種類のみとなりますので、複雑な制御をしたい場合は、OSやFWの機能をご利用ください。

Community

SNMP Trapのコミュニティ名を設定します。

Trap通知先

SNMP Trapの通知先をIPv4アドレスで指定しています。複数設定可能です。複数設定した場合、コミュニティ名は同一となります。

4.6.3. プロキシ設定

プロキシ環境下で、ライセンス認証をオンラインで行うために必要な設定です。



プロキシ設定 : OSの設定に従う ▼

Save

プロキシ設定

「OSの設定に従う」「静的に指定する」「使用しない」が選択できます。

デフォルトは「OSの設定に従う」です。「静的に指定する」を選択した場合、プロキシサーバーを指定する入力項目が表示されます。お使いの環境に合わせて登録してください。



プロキシ設定 : 静的に指定する ▼

サーバー :

ポート :

ID :

パスワード : パスワードは暗号化されずに送信される場合があります

Save

4.6.4. ユーザー管理

本システムを管理・使用するユーザーを登録・変更するメニューです。

ユーザー管理

admin
elle

①

② ユーザーID admin

③ ☐ APIユーザー

パスワード

④ パスワード確認

管理者 ☒ 管理者権限あり ⑤

Save

+ -

ユーザー選択(①)

情報を確認・変更するユーザーを選択します。
+ボタンで新規ユーザーの追加ができます。
-ボタンで表示中のユーザーの削除ができます。

ユーザーID(②)

新規登録時にIDを入力します。一度設定したIDは変更できません。IDに使用可能な文字は、アルファベット(大文字・小文字を区別します)、数字、-(ハイフン)、_(アンダーバー)、.(ピリオド)、@(アット)です。

APIユーザー(③)

API用のユーザーを登録する時にオンにします。新規登録時のみ設定可能です。
APIユーザーの場合、パスワードの代わりにCredentialが発行されます。
Credentialの発行ボタンを押すと、Credentialを記載したテキストファイルがダウンロードできます。無くさないよう保管してください。
機構上、同じCredentialは再発行できません。再発行した場合、現在のCredentialは無効になりますのでご注意ください。

ユーザーID APITESTUSER ☒ APIユーザー

Credential 発行する

APIについての詳細はAPI仕様書をご覧ください。

パスワード入力欄(④)

設定するパスワードを入力してください。既存ユーザーの場合、「変更する」のチェックボックスをオンにして入力してください。

パスワードは[パスワード変更](#)メニューからユーザー自身に変更することも可能です。

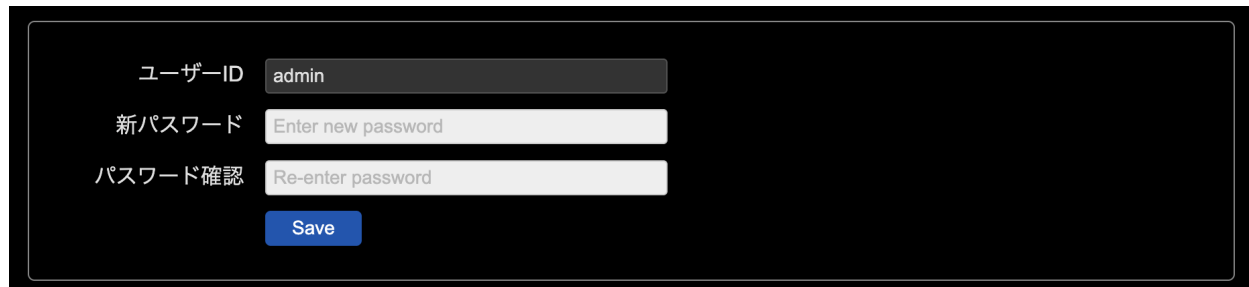
管理者(⑤)

ユーザーに管理者権限をつける場合にオンにしてください。

非管理者は、システムの設定変更権限はなく、表示のみ可能です。

4.6.5. パスワード変更

ログインしているユーザーのパスワードを変更する画面です。
新パスワードを入力し、セーブボタンを押してください。

A screenshot of a password change form. The form is set against a dark background. It contains three input fields: 'ユーザーID' (User ID) with the value 'admin', '新パスワード' (New Password) with the placeholder 'Enter new password', and 'パスワード確認' (Password Confirmation) with the placeholder 'Re-enter password'. Below these fields is a blue 'Save' button.

ユーザーID	admin
新パスワード	Enter new password
パスワード確認	Re-enter password
<button>Save</button>	

4.7. ライセンスメニュー

4.7.1. ライセンス設定

ライセンスの状況確認や、更新、解除が行えるメニューです。

① アカウント : aki.hanzawa@amber-sign.jp
ライセンス状態 : active
プラン : Premium
確認方法 : offline オンラインに切り替える ②
最終ライセンス確認日時 : 2025-07-10 13:06:42 +0900 JST
ライセンス期限 : 2026-05-24 12:20:13 +0900 JST (317日後)

ライセンス更新 : ファイルを選択 ③ 選択されていません

ライセンス解除 : ライセンスを解除する ④

ライセンス状態(①)

ライセンスが有効かどうかの情報、ライセンス認証方法、期限などを表示します。

オンライン・オフライン切り替え(②)

オンラインとオフラインを切り替えることができます。オフラインで登録していたが、インターネットが接続可能になった場合などに実施してください。

切り替えはインターネットに接続できる状態でのみ行うことができます。

ライセンス更新(オフラインライセンス認証時)(③)

ライセンスが更新になった場合や、プランを変更した場合などに、新たにライセンスファイルを適用することができます。アンバーサインWebサイトからダウンロードしたライセンスファイルを入力してください。

ライセンスファイルはご利用のデバイスに紐づいていますので別のデバイス用のライセンスを入力するとエラーになります。

ライセンス確認(オンラインライセンス認証時)(③)

ライセンス確認： [ライセンス情報を更新する](#)

オンラインライセンス認証モードでは、「ライセンス情報を更新する」ボタンになります。ライセンス期限更新時やプランを変更して、ライセンスの最新情報をすぐに適用したい場合に押してください。（押さなくても半日～1日ほどで自動的に適用されます。）

ライセンス解除(④)

端末の故障や更新時に、もうこのデバイスでアプリを使用しない場合にライセンス解除を行うことができます。解除を行うと、アプリは使用不能となり、解除したライセンスを別のデバイスに適用することができます。

4.7.2. このアプリについて

ソフトウェアのバージョン情報、および、ソフトウェア利用規約および関連規程を表示します。

4.7.3. OSS／サードパーティライセンス

Open Source Softwareや、その他ライセンスを表示します。必要に応じてご覧ください。

4.8. メンテナンスメニュー

4.8.1. 通知

システムから通知が表示されます。

通知 過去30件までの通知を表示しています

日時	レベル	内容
2025-09-18 19:05:10	Information	{"Msg": "Start AS NMOS Matrix."}

4.8.2. ログ

ログのダウンロード、および、リアルタイムでログが確認できます。
サポートが必要な場合などにご利用ください。

ログのダウンロード

Select log files to download

Download

リアルタイムログ

```
2025/09/20 17:51:00.097607 common_func_log.go:162: Debug : e.GetSDP bcd6b24e-2ac5-5eaa-af2a-ddd46ba6e97c, err=Get
"http://10.26.0.20:8090/x-nmos/connection/v1.1/single/senders/bcd6b24e-2ac5-5eaa-af2a-ddd46ba6e97c/transportfile": dial tcp
10.26.0.20:8090: connect: connection refused, [nm_getStagedLoop.go:85] main.(*NMOSMatrixStruct).getStagedLoop.func2
2025/09/20 17:51:00.097705 common_func_log.go:162: Debug : e.GetStaged 52d54d62-a4cf-526b-a48f-ead0e38e5cf6, err=http.Get error :
Get "http://10.26.0.20:8090/x-nmos/connection/v1.1/single/receivers/52d54d62-a4cf-526b-a48f-ead0e38e5cf6/active": dial tcp
10.26.0.20:8090: connect: connection refused, [nm_getStagedLoop.go:72] main.(*NMOSMatrixStruct).getStagedLoop.func2
2025/09/20 17:51:00.097788 common_func_log.go:162: Debug : SDP Get error : Get "http://10.26.0.20:8090/x-
nmos/connection/v1.1/single/senders/8df4e482-c394-54a1-8729-3bd05540d2dc/transportfile": dial tcp 10.26.0.20:8090: connect:
connection refused, [nmos_is05_patch.go:150] github.com/AmberSign/nmos.(*Endpoint).GetSDP.func1
2025/09/20 17:51:00.097831 common_func_log.go:162: Debug : e.GetSDP 8df4e482-c394-54a1-8729-3bd05540d2dc, err=Get
"http://10.26.0.20:8090/x-nmos/connection/v1.1/single/senders/8df4e482-c394-54a1-8729-3bd05540d2dc/transportfile": dial tcp
10.26.0.20:8090: connect: connection refused, [nm_getStagedLoop.go:85] main.(*NMOSMatrixStruct).getStagedLoop.func2
2025/09/20 17:51:00.098022 common_func_log.go:162: Debug : e.GetSDP 4c06cdd7-d8df-410a-bcb1-d6d21e289a57,
err=url=http://10.26.0.31:10000/x-nmos/connection/v1.1/single/senders/4c06cdd7-d8df-410a-bcb1-d6d21e289a57/transportfile,
status=404, [nm_getStagedLoop.go:85] main.(*NMOSMatrixStruct).getStagedLoop.func2
2025/09/20 17:51:00.098192 common_func_log.go:162: Debug : e.GetSDP b9ea004a-edfc-4529-b10a-67781bfef86e,
err=url=http://10.26.0.31:10000/x-nmos/connection/v1.1/single/senders/b9ea004a-edfc-4529-b10a-67781bfef86e/transportfile,
status=404, [nm_getStagedLoop.go:85] main.(*NMOSMatrixStruct).getStagedLoop.func2
2025/09/20 17:51:00.098361 common_func_log.go:162: Debug : e.GetSDP 7a794424-db4b-4583-8199-0102cfefca89,
err=url=http://10.26.0.31:10000/x-nmos/connection/v1.1/single/senders/7a794424-db4b-4583-8199-0102cfefca89/transportfile,
status=404, [nm_getStagedLoop.go:85] main.(*NMOSMatrixStruct).getStagedLoop.func2
```

4.9. ログアウト

Web設定画面からログアウトします。

4.10. 条件式構文について

ウォッチフォルダーでは数式による条件が指定できます。
条件式には、変数、値、比較演算子、論理演算子などを使用できます。
条件式を評価した結果が次のいずれかになるように記述します。

true	条件を満たす
false	条件を満たさない

4.10.1. 入力例

`source.mxf_header=="ok"`

`"JbaOverLoudness" in source.message_ids`

`source.mxf_header=="ok" && source.mxf_overall=="ok"`

4.10.2. 値の型

条件式では、主に次の型の値を使用します。

型	内容	入力例
真偽値	真または偽を表す値	true、false
文字列	文字の並び	"ready"、'error'

整数	小数点を含まない数値	0、10、-1
小数	小数点を含む数値	0.5、29.97
配列	複数の値をまとめたもの	["ready", "completed"]
nil	値が存在しないことを表す値	nil

文字列は、半角のダブルクォーテーション(")またはシングルクォーテーション(')で囲みます。
また、比較演算子において、文字列の大文字と小文字は区別されます。

```
status == "ready"
```

trueと"true"は異なる値です。

true	真偽値
"true"	文字列

また、クォーテーションで囲まれていない文字は、原則として変数名として扱われます。

4.10.3. 変数内の項目を参照する

変数に複数の項目が含まれている場合は、.でつないで項目を参照します。

```
source.message_ids
```

上記は、source に含まれる message_ids を参照します。

4.10.4. 配列に値が含まれているか判定する

配列に特定の値が含まれているかを判定するには、inを使用します。

```
検索する値 in 配列
```

たとえば、配列変数 `source.message_ids` に文字列 `"JbaOverLoudness"` が含まれているかを判定する場合は、次のように入力します。

```
"JbaOverLoudness" in source.message_ids
```

`source.message_ids` に `"JbaOverLoudness"` が含まれている場合は `true`、含まれていない場合は `false` になります。

配列に値が含まれていないことを判定する場合は、`not in`を使用します。

```
"JbaOverLoudness" not in source.message_ids
```

複数の候補のいずれかと一致するかを判定するために、式の中で配列を直接記述することもできます。

```
status in ["ok", "warning"]
```

上記は、`status` が `"ok"` または `"warning"` の場合に `true` になります。

配列内の値は、`,`で区切って記述します。

4.10.5. 論理演算子

複数の条件を組み合わせることができます。

演算子	内容	入力例
<code>and</code> または <code>&&</code>	両方の条件を満たす	<code>x >= 0 && x <= 100</code>
<code>or</code> または <code> </code>	いずれかの条件を満たす	<code>x < 0 x > 100</code>
<code>not</code> または <code>!</code>	条件を反転する	<code>!(x == 0)</code>

4.10.6. 比較演算子

値を比較すると、条件を満たす場合は true 、満たさない場合は false になります。

演算子	内容	入力例
==	等しい	x == 10
!=	等しくない	x != 10
<	より小さい	x < 10
>	より大きい	x > 10
<=	以下	x <= 10
>=	以上	x >= 10

4.10.7. 算術演算子

演算子	内容	入力例
+	加算	x + 10
-	減算	x - 10
*	乗算	x * 2
/	除算	x / 2
%	剰余	x % 2
^ または **	べき乗	x ^ 2

4.10.8. 括弧

括弧を使用して、計算する順序を指定できます。

$$(x + y) * 2$$

上記では、 $x + y$ が先に計算されます。

4.10.9. 三項演算子

条件によって結果を切り替えることができます。

条件 ? 条件を満たす場合の値 : 条件を満たさない場合の値

たとえば、 x が0以上の場合は x を使用し、0未満の場合は 0 にするには、次のように入力します。

$x \geq 0 ? x : 0$

5. 検査結果詳細画面

処理履歴の検査履歴から「詳細画面」へ遷移したとき、および、APIで検査開始を指示したときの status_href で返却されるURLを開いたときに表示される画面です。

本画面はURLに素材ごとのキーが埋め込まれており、認証なしで開くことができます。URLの取扱いにはご注意ください。

表示内容は、AS MXF Checkerデスクトップ版と同様です。

5.1. 検査結果詳細画面の概要

起動後、メイン画面が表示されます。メイン画面には、以下の主要なセクションが表示されます。

The screenshot displays the AS MXF Checker Server interface. The top bar shows the Amber Sign logo and the server name. Below this is a table of inspection results. The table has columns for File Name, Size, File Size, Start Time, MXF Header, MXF Body, Release, Other, Format, and Check Results. The first row shows the file 'エル60秒+88F.mxf' with a size of 0.5 GB and a start time of 00:01:13:00. The check results indicate a warning about the header information not meeting the standard.

ファイル名	サイズ	ファイル尺	スタートTC	MXFヘッダ	MXF全体	民放連	その他	フォーマット	チェック結果
エル60秒+88F.mxf	0.5 GB	00:01:13:00	00:59:50:00	△	△	○	○	XDCAM MPEGHD422	ヘッダーの情報が規格に準拠していません。再生機によってはエラーになる可能性があります。後捨てカットが98フレームです。

Below the table, there are two main sections: 'ファイル詳細情報' (File Detailed Information) and '検査ログ' (Inspection Log). The 'ファイル詳細情報' section is divided into two columns. The left column contains file metadata such as file name, size, resolution, frame count, time code, operation pattern, partition style, status, UMID, SHA1 hash, and output software. The right column contains technical details about the MXF format, including the format, video codec, color space, frame rate, maximum frame size, audio codec, number of audio channels, and loudness. The '検査ログ' section shows a list of warnings and information messages, including warnings about track tags and video descriptor tags, and information about the CM material and the number of dropped frames.

At the bottom, there is a section for 'ファイル詳細情報(Raw)' (File Detailed Information (Raw)).

MXFファイル情報エリア(①)

検査したMXFファイルの検査結果が表示されます。

各列の意味は以下の通りです。

ファイル名	検査するMXFのファイル名です。
サイズ	ファイルサイズです。単位はGB(1000^3)です
ファイル尺	ファイルのデュレーションです
スタートTC	ファイルのスタートTCです
チェック結果	
MXFヘッダ	MXFのヘッダーメタデータの検査結果を○△ × で表示します
MXF全体	MXFのインデックステーブルやフレームデータの検査結果を○△ × で表示します
民放連	民放連基準の検査結果を○△ × で表示します
その他	その他、運用上トラブルとなりやすい項目の検査結果を○△ × で表示します
フォーマット	ファイルの状態から推察されるフォーマットを表示します。(XDCAM MPEGHD422、XAVC-L25など)
インフォメーション	検査結果に関する情報のサマリーが表示されます。MXFファイルに何も問題がなかった場合は何も表示されません。 検査中はプログレスバーが表示されます。

ファイル詳細情報(②)

選択したファイルの詳細な情報が表示されます。各項目の意味は以下の通りです。

ファイル名	検査するMXFのファイル名です。
ファイルサイズ	ファイルサイズです。
解像度・方式	解像度、フレームレート、インターレース／プログレッシブを表示します。

フレーム数	ファイルが内包しているフレーム数を表示します。Pre-ChargeやRoll-OutがあるMXFファイルの場合、その分のフレームを含みます。
タイムコード	DFかNDFかの別、および、タイムコードの連続判定、スタートTCおよび最後のフレームのTCを表示します。 タイムコードが連続しているかの判定は、まず、簡易判定値が表示され、全フレームの検査終了後に判定値が表示されます。
オペレーションパターン	MXFのオペレーションパターンを表示します。通常、OP1aです。Panasonic製MXFやDNxHDなどでは、OP1bやOP-Atomが表示される場合があります。
パーティションスタイル	Segmented Body Partition Style や Single Body Partition Styleといった文言が表示されます。 民放連搬入基準 T035では、Segmented Body Partition Styleである必要があります。
ステータス	「Closed and Complete」「Open and Incomplete」などの情報が表示されます。グローイング形式でヘッダーとフッターの状態が異なる場合、矢印で表現されます。 民放連搬入基準 T035では、「Closed and Complete」である必要があります。
UMID	MXFファイルのUMIDを表示します。
SHA1ハッシュ値	MXFファイルのハッシュ値を表示します。SHA1ハッシュ値はCMオンラインで利用される値です。
出力ソフトウェア	検査したMXFを出力したソフトウェア名が表示されます。
MXFフォーマット	ファイルの状態から推察されるフォーマットを表示します。(XDCAM MPEGHD422、XAVC-L25など)
映像コーデック	映像コーデックの種類を表示します。
色域・ダイナミックレンジ	BT.709、BT.2020、BT.2100(HLG)、BT.2100(PQ)を表示します。BT.2100はHDRです。

映像平均ビットレート	ヘッダーメタデータに記載されているビットレートです。
瞬間最大ビットレート	実際のMXFのビットレートを算出し、その最大値を表示します。
最大フレームサイズ	MXFのフレームデータの最大サイズと、GOPサイズの最大値を表示します。これが過大だと再生機でエラーになる場合があります。
音声コーデック	リニアPCMかどうかと、ビット数とサンプリング周波数を表示します。
音声チャンネル数	MXFに含まれる音声チャンネル数を表示します。
ラウドネス	ラウドネス計算したLKFS値とトゥルーピーク値を表示します。同時に2ストリームまで検査可能です。 タイムコードのshow点からファイル終端までが検査対象になり、カラーバーの1KHzなどは検査対象外となりますので、民放連基準T032「テレビ放送における音声レベル運用規準」に準拠した検査が可能です。
アンシラリ	MXFにアンシラリ情報を含むかと、含む場合、フレームごとのバイト数を表示します。

- 検査証明書ダウンロードボタン

本ソフトウェアで検査したことを示す検査証明書PDFファイルをダウンロードします。

検査証明書PDFは、下記のようなPDFです。

※すべての再生機器・編集環境での完全な動作を保証するものではありません。

検査証明書	
下記の素材を AS MXF Checker で検査したことを証明します。	
検査モード【標準】	
検査日時	2026/02/04 17:26:39 JST
ファイル名	エル60秒+88F.mxf
バイト数	548,030,608 Bytes
フォーマット	XDCAM MPEGHD422
スタートTC	00:59:50;00
デュレーション	00:01:13;00
UMID	060a2b340101010501010d11130000004070a8017510069744520e02a6aec17a
SHA1 ハッシュ値	0797d84d84505f535fe2af8f853c373f62e4db60
[チェック結果]	
MXFヘッダ	WARNING
MXF全体	WARNING
民放連規格	OK
その他	OK
インフォメーション	
※本検査結果は、本ソフトウェアが検出可能な項目に基づきMXFファイルの構造やメタデータの整合性を確認したものであり、すべての再生機器・編集環境での完全な動作を保証するものではありません。	
株式会社アンバーサイン AS MXF Checker Server バージョン v1.1.0-dev にて検査	
出力: 2026/02/04 17:26:39 JST	

- 検査結果ダウンロードボタン

検査ログやファイル詳細情報をテキストファイルでダウンロードできます。詳細な解析を技術者に依頼するときなど、必要に応じてご利用ください。

なお、インデックス情報はファイルサイズが大きいのでご注意ください。



検査ログ(③)

「インフォメーション」に表記しきれなかった検査の詳細ログを表示します。技術者向けの情報です。

ファイル詳細情報(Raw)(④)

MXFのヘッダーメタデータのKLVの解析結果のjsonを表示しています。技術者向けの情報になりますので必要に応じてご利用ください。

6. トラブルシューティング

6.1. よくある質問とその解決策

(AS MXF Checker デスクトップ版のマニュアルのよくある質問もご覧ください。)

Q. AS MXF Checkerデスクトップ版と検査内容は同じですか？

A. 検査自体は同じです。

Q. ライセンス形態の種類を教えてください。

A. ライセンスは主に、

放送局様・ポスプロ様等、自社の業務で保有・制作・放送・配信するコンテンツに対して検査やリラップを行うための「通常利用ライセンス」、

SaaS等、第三者へのサービス提供を主目的とする「商用利用ライセンス」、

開発時の「開発用ライセンス」、

があります。詳しくは当社までお問い合わせください。

Q. APIにてMXFファイルの部分切り出しができるようですがこれの用途は？

A. APIのみに特化した機能で、例えば、番宣の一本化素材から、各素材を切り出したりする用途を想定しています。

Q. デスクトップ版のように、画面上でファイルを選択して検査することはできますか？

A. いいえ、本製品(Server版)はAPIおよびウォッチフォルダによる自動化・システム連携に特化しているため、Web管理画面から直接ファイルを選択して検査を実行する機能はありません。

Q. クラウド環境(AWSやGCPなど)でも動作しますか？

A. はい、動作します。ただし、インスタンスの再起動などでハードウェア識別が変わりライセンスが停止するのを防ぐため、無料の「クラウドキー」の発行と設定が必要です。

Q. 1台のサーバーで、同時に複数のファイルを検査できますか？

A. はい、可能です。標準では最大3並列までとなっており、設定メニューから稼働数を変更できます(上限はライセンスによります)。

Q. ウォッチフォルダーを設定するときの開始条件の「対象ファイルに変化がなくなってからN秒後」のNの推奨値は？

A. 環境によっても異なります。Windowsの場合、書き込み中のファイルは基本的に読み出せないようにロックがかかるのでN=1でも問題が発生する可能性は低いです。MacOSやLinuxでは書き込み中のファイルを読めますので、安全のため、N=10やN=30の設定が望ましいでしょう。特にネットワークフォルダの場合はタイムラグが生じる場合がありますので、大きめに設定することを推奨します。

Q. S3へのリラップ出力時、尺が長いとストレージがたくさん必要ですか？ なぜローカルストレージが必要なのですか？

A. S3へのリラップ出力時、尺10分ごとに約350MiBのストレージが必要です。たとえば、100分の素材の場合、約3.5GiBのストレージを使用します。これはMXFファイルの規格上、ファイルを最後まで書き終わらないと確定しない値があり、約10秒に一つ存在する全ての「パーティション」にその値を書き込まないといけません。S3ストレージは通常のストレージと異なり、一度書き込んだデータを修正することができません。そのため、AS MXF Checker Serverでは、S3ストレージに備わっているマルチパートアップロード機能を応用し、確定しない値を含む部分をローカルストレージに一時的に保存しておき、ファイルを終端まで書き終わったあとにローカルストレージから確定した値をいれた状態でマルチパートアップロードでアップロードします。つまり、歯抜けでアップロードを行ってあとから足りない部分を補う形で処理を行うため、一時的にローカルストレージが必要になっています。

7. 補足情報

7.1. ライセンスについて

『AS MXF Checker Server』は、「目的」および「サーバー台数」ごとに1つ必要です。「目的」とは、本製品を組み込む対象となる独立した業務システムやワークフロー（例：番組納品システム、報道編集システム、アーカイブシステム等）を指します。

開発時に、本番用ライセンスより安価な開発用ライセンスを発行することができます。開発用ライセンスは月単位でご購入が可能です。機能制限はありませんが開発用ライセンスでは本番運用を行うことはできません。

8. サポートについて

ご不明な点がございましたら、以下のサポート窓口までお問い合わせください：

Webフォーム：<https://www.amber-sign.jp/contact/>

メール：support@amber-sign.jp

サポート対応時間：平日 10:00～18:00（土日祝および当社が定める休日を除く）

継続課金型サービス（サブスクリプション）ユーザー向けサポート規程

<https://www.amber-sign.jp/terms/subscription.html>